

感謝の日

松浦 純子

十一月後半になると、ブラックフライデー（以下BF）ということばがあちこちで聞かれる。これはアメリカの感謝祭（十一月の第四木曜日）の翌日の金曜日を指す。

そもそも感謝祭とは何かといえば、以下のとおりである。国王ジエームズ一世がイギリス国教会を強制したことに反発し、およそ百名のピューリタンが、一六二〇年にメイフラワー号でイギリスのプリマスから出港して大西洋を横断し、十一月にアメリカ・マサチューセッツに上陸した。この人たちをピルグリム・リファーマーズと呼ぶが、十七世紀は地球規模で寒冷化が進み、戦争や飢饉が多発した時期であった。従つて彼らもこの影響を受け、飢餓や病気で半年の間に半数ほどが亡くなつたと言われている。

彼らが上陸した地域に住んでいた先住民は、この様子を見て食料や物資を援助し、また狩猟や栽培方法も教えた。そのお陰で、翌年の秋にはピルグリム・リファーマーズは無事に食料を収穫でき、お礼に先住民を招待して宴を開いた。このことが感謝祭の起源になつていてる。

しかし、まもなく入植者と先住民の対立が起こり、後にアパラチア山脈を挟んで対立するようになつた。

今日のアメリカは移民としてやつて来た人々を助けるどころか、排除することに一生懸命である。従つて感謝されることはないだろう。だつたらBFに「感謝祭」の翌日という枕詞を使って欲しくない気がする。

日本では、勤労感謝の日は一九四八年に制定された「国民の祝日に関する法律」で十一月二十三日と決められた。勤労は国民の三大義務のひとつである。「勤労をたつとび、生産を祝い、国民がたがいに感謝しあう」が設置意義だ。アメリカと同様に日本でも感謝の日の後に行われるBFは感謝とは全く関係がない。現在、BFは世界の多くの国でやつているようで、Amazonが広めた気がする。在庫一掃セールを騒ぐより、生活苦の中、勤労・教育・納税の三つの義務を果たしている国民に対して、何か感謝の気持ちがあつてもいいと思う。